



姉妹都市・アイダホフォールズ市への学生訪問団員募集！

村では、村の国際親善姉妹都市・米国アイダホフォールズ市を訪問する学生訪問団員を募集します。

ホームステイや現地の方々との交流を通して、異文化への理解を深め、国際感覚を養います。この機会に、ぜひご応募ください。

【期 間】7月27日(木)～8月8日(火)

【対 象】▽村内在住またはこれまでにアイダホフォールズ市学生訪問団のホストファミリーをしたことがある▽中学1年生～高校3年生(平成29年4月1日現在)▽村の姉妹都市交流・国際交流活動に積極的に参加できる——を満了の方

【定 員】15人程度 ※応募者多数の場合は、初めて参加する方・年齢が高い方を優先し、選考します。

【費 用】約27万円(海外旅行保険料を含む) ※▽航空運賃等の改定により、金額が変動することがあります。▽村内在住の方は、費用に対する助成(費用の半額を助成しますが、その上限は10万円/人)を受けることができます。

【そ の 他】海外旅行保険に加入します。

【申し込み・問い合わせ】まちづくり推進課(役場行政棟3階 ☎282-1711 内線1342)または姉妹都市交流会館(☎282-0535) 備え付けの申込書に必要事項を記入の上、4月17日(月)までに申し込みください。※詳細は、村公式ホームページをご覧ください。また、申込書もダウンロードできます。

ふるさと歴訪
——歴史を再発見——

水戸藩の「廃仏毀釈」余話

幕末、石神陣屋配下の村役人である黒澤寛蔵は、水戸藩主徳川斉昭の「寺潰し」と称する「廃仏毀釈」の命令に従わなければならない役職にありました。彼は熱心な仏教徒であるだけに、どうしたらよいかわからない状況に立たされたのです。それは当時、水戸藩の廃仏毀釈に断固として抵抗している願船寺を破却する先兵になるということでした。その苦悩はどれほどだったのか計り知れません。

弘化3(1846)年2月2日、水戸藩による願船寺焼き討ち前日の早朝に「甚だ急な申し出ながら、本日親の法要をしたい。その後久しぶりに碁でも打ちましよう」と、願船寺二十一世住職である学玄へ、覚蔵からの願い出がありました。法要が終わる2人は碁盤に向かいましたが、目の前の覚蔵は全くの上の空でした。彼から何かを訴えたいが、伝えられないもどかしさを感じ取った学玄は、「ただ事なら」と、帰るや否や本堂のご本尊だけを残し、伝来の宝物類を車付きの長持ちの中に納めました。まさかその晩に、焼き討ちに遭うとは思わ



願船寺の大イチョウ

〔注〕「廃仏毀釈」：水戸学の尊王攘夷論を基本に据えた、仏教への弾圧排斥運動。天保15(1844)年「自葬祭の儀」を布告し、領内の寺院をすべて廃絶し住職は還俗すべしという、極端な政策であった。

なかったでしょう。この焼き討ちで、本堂庫裡が全焼し、大イチョウも真つ黒に焼けてしまいました。3年後に芽を吹き返したといいますが、洞になっているところ(左写真参照)は、当時の炎のすさまじさを物語っています。覚蔵の物言えぬ必死の訴えがなければ、願船寺伝来の宝物類はすべて焼失してしまうところでした。また、同年5月5日には庫裡の上棟式を挙行しました。そこでも覚蔵は、おむすびやお煮しめをたくさん作り、酒樽と共にひそかに差し入れをしたそうです。

幕末の水戸藩は、内紛を繰り返す、民衆にまでその怨念は引き継がれました。時代に翻弄される覚蔵の苦渋の行動と心の葛藤に思いを寄せると、その本意は最後まで願船寺を守るために行つたことと思われる歴史の一場面でした。

東海村文化財保護審議会委員
真宗大谷派願船寺住職

藤井 学昭

ぜひご利用ください！



村公式アプリ
「こちら東海村」



村公式子育て応援アプリ
「のびのび子育て帳」



村公式フェイスブック
「東海村ご当地レポーター」



村公式ツイッター
「東海村」